

4. 先進的な医療技術（がん治療）の指導、医療交流事業

公益財団法人 がん研究会

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

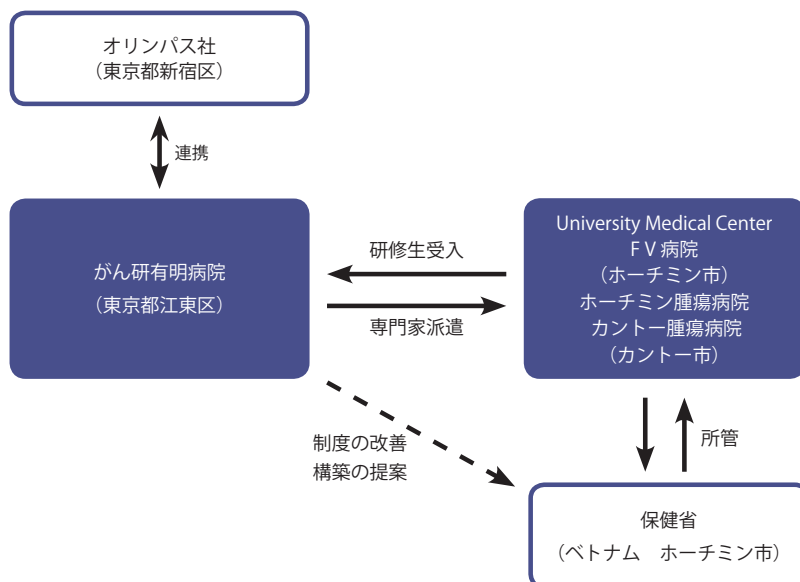
現状がんの早期発見、予防という考えが普及していないベトナムでは、がん治療分野では、まだまだ進歩の余地がある。富裕層はシンガポールやタイの病院へ行って医療サービスを受けているが、最近日本の医療機関で医療サービスを受けるベトナム人が増加し始めている。診断、検査、治療における当院の有する高い技術をベトナム人医師に習得してもらい、ベトナムでの医療レベルの底上げを図ると同時に、ベトナム人の癌患者が可及速やかに日本で治療を受けるための連携の確立が急がれる。

【事業の目的】

当院ではベトナム人患者が増加しており、2017年度は治療、健診に約50名来院している。当院とベトナムの病院が交流連携し、研修医の受け入れや現地医療機関の訪問を実施し医療交流を図ることで、日本の医療をベトナムに紹介することができる。今年度のプロジェクトでは病理検査、内視鏡治療、消化器外科手術の知識をベトナム人医師に来日研修で習得してもらい、ベトナム人患者の受け入れや2国間での円滑な連携治療を目指す。ベトナム人患者のコンサルティングや治療を当院でも担うよう、ベトナムからの患者の受け入れも積極的に行う。当院で手術治療した患者がベトナム帰国後も現地病院でスムーズに継続治療や緊急対応が受けられ、当院とベトナムの医師同士が連携を取れるようにしたい。この医療交流を通じて早期治療と予防医療について広く啓蒙し、結果がん患者を一人でも多く治療・快癒できるようにするために、ベトナム・日本での後方連携を推進する。

【研修目標】

1. 胃外科 早期胃がんの肉眼分類・進行度分類を説明できる。早期胃癌と進行性胃癌の手術適用について説明できる。胃癌手術の術後合併症とその処置を説明できる。腹腔鏡補助下胃切除術について説明できる。
2. 内視鏡 ①上部消化管内視鏡～見逃しのない検査ができる。食道癌、胃癌の範囲診断。深達度診断、NBI 拡大内視鏡、拡大所見が読影でき、EUS 所見ができる。胃と食道のESD。②大腸内視鏡～拡大内視鏡（クリスタルバイオレット、NBI 拡大）の所見と組織学的意味が理解できる。深達度診断ができる。組織型が拡大内視鏡で予測できる。
3. 病理 食道、胃、小腸、大腸について、各100例以上の症例を検討し診断を行うことができ、癌と鑑別すべき再生性病変に関して、学ぶ。内視鏡切除と外科的切除、免疫染色、遺伝子診断について十分な知識がえられるよう研修する。



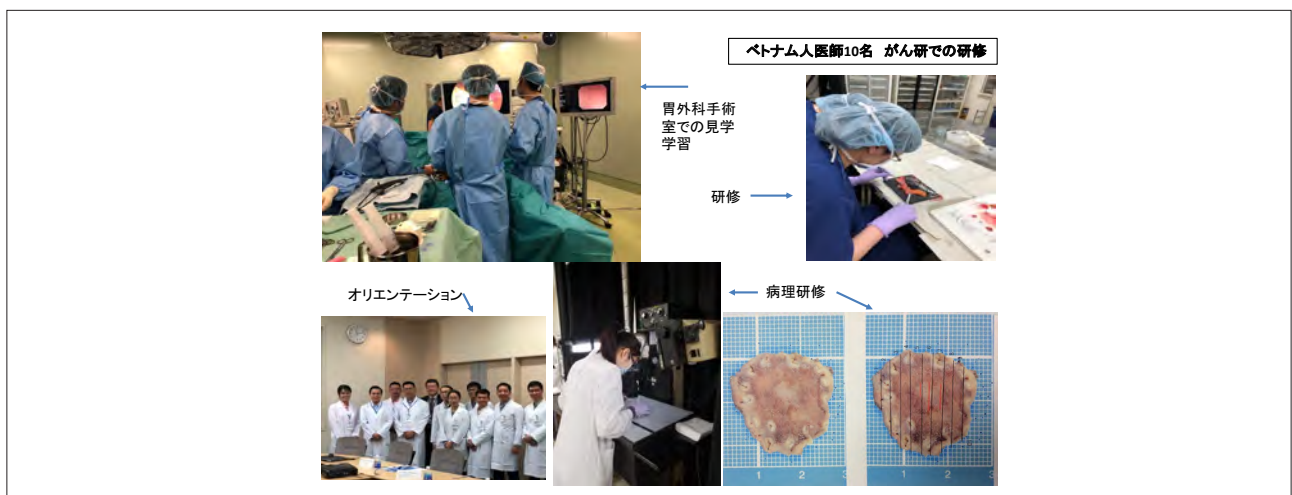
がん研究会、国際医療課の稲垣と申します。国際医療課とは、いわゆる外国人患者の受け入れのサポートをやっているセクションになります。今回、初めて国際医療展開推進事業にエントリーさせていただきました。正直、初めての取り組みだったもので、色々と紆余曲折もありましたが、以下ご報告させていただければと思います。

最初に事業の概要をご説明します。私どもの病院には、海外からの渡航患者が多数ございますが、海外の医療機関との連携の重要度がより増大してきております。東南アジアの中でもベトナムとの関係が相当に密になってきていると、日常の診療に関わっていても実感しております。多いのはやはり中国からの患者ですが、17年度くらいから、次に多いのはベトナムからという状況になっています。がん治療は長期にわたるものも多く、海外の医療機関との連携が必要なのですが、中国にはもう20年近く交流を持つ医療機関が複数あり、連携関係を持っております。しかし、ベトナムに関しては、医師の個人的な交流以外には関係がほとんどないという状態が今回の事業を始めさせていただいた背景です。

全体の実施体制ですが、今回は最先端医療技術の紹介がテーマになっており、私どもが提供できる医療技術として、病理、内視鏡、胃外科など、がん研としての強みと言われている部分を紹介出来ればと考えました。国内外からの研修医も多く受け入れている分野ですので、ここを取り上げました。提携先は、初回ということもありまして、医師の国際交流や学会の繋がりを頼りに、ホーチミンを中心に4つの病院を選定させていただきました。1番目がUMCという大学付属病院です。2番目はFV病院というフランス系の私立病院で設備的にも相当良い病院であるとお聞きしてお受けしました。3つ目はホーチミンの公立腫瘍病院、4つ目は南部のカントー市の公立腫瘍病院です。この4病院から病理を3名、内視鏡を3名、胃外科4名の研修医を受け入れました。また、逆にこちらから現地に専門医を派遣させていただき、ホーチミンでのライブデモンストレーションを中心としたセミナーを行いました。

2018年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
日本人専門家の派遣(人数、期間)									→ 日本人医師4名 ホーチミンに派遣 1/14-1/18	
海外研修生の受入(人数、期間)							→ ベトナム人医師10名 日本で研修 11/4-12/4			
研修内容							4つの病院から来日し、胃外科4名、内視鏡3名、病理3名に分かれて研修した。		ホーチミンの2病院で、内視鏡と腹腔鏡の講演、ライブデモンストレーションをした。	

スケジュールですが、年度前半はフレームワークやスケジュール作成のための提携先との交渉等に費やしました。研修を通して来日していただいたのが11月です。苦勞をいたしました。10人を一気に受け入れるというようなスケジュールで行いました。彼らが帰って、1カ月経った1月に専門医が現地に参りまして、内視鏡及び胃外科のライブデモンストレーションとセミナーを実施させていただきました。当初病理セミナーも企画しましたが、現地ニーズと予算スケジュールの関係で断念しまして、代わりに内視鏡及び胃外科から部長クラスとデモンストレーション用のアシスタントの医師を派遣させていただきました。



日本での研修の状況です。胃外科の先生方が研修しております。下段左は初日のオリエンテーションで集まった10人の医師達です。病理は、約1カ月間で100例以上の検体を見ていくという研修をさせていただきました。

ベトナムでのイベント(University Medical CenterとHochiminh City Oncology Hospital)



← 当院医師
University
Medical Centerで
の講演

胃癌内視鏡治療
風景 Hochiminh
City Oncology
Hospital →



← 腹腔鏡手術風景
Hochiminh City Oncology Hospital

University Medical Centerにて



スライドは、1月にベトナムに行った時の状況です。内視鏡の講演や、手術の準備、腹腔鏡手術の様子です。

この1年間の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画 (具体的な数値 を記載)	<ul style="list-style-type: none"> ①ベトナムから10名の研修医が来日、当院で1か月研修 ②10名が胃外科・内視鏡・病理に分かれ研修し、最低7割の習得を目標とする ③当院医師がベトナムを訪問し、2病院で講演・実技指導・手術デモンストレーションを行う。受講者数40名を目標に指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①10名の研修医が当院で新たに学んだ分析・診断・治療方法を用いて、帰国後にがん検査・治療に役立てる ②当院への検査・治療に関するコンサルトや患者紹介件数が増える。10症例発生 ③当院で研修を受けたベトナム人医師が新たに30名の医師を教育する。またその30名が複数の医師を教育していき、教育効果がホーチミン以外の都市にも波及していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ベトナム4病院で日本のがん治療についての興味・問い合わせが増える。計40件発生。 ②次年度以降のベトナム人医師の当院への研修来院や当院医師の現地講演などへの要望が増える。 ③当院への検査・治療に関するコンサルトや患者紹介件数が増える。10症例増加。
実施後の結果 (具体的な数値 を記載)	<ul style="list-style-type: none"> ①ベトナム4機関からの医師10名1か月の研修を実施 ②それぞれの診療科で研修した結果、各人8-9割の理解度を達成 ③2病院にて、内視鏡チームと胃外科チームが、講演及びライブを行い、それぞれ50-80名の研修者(聴講者)が参集した。(様式A-2参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ①診療科に関わらず、10名全員が新しい知識を検査・診療に活用している。 ②研修終了、及び講演・デモンストレーション修了からわずかな日数しかたっていないが、研修医たちが活発に周りに研修結果を報告している。研修医より患者紹介1件あり。研修希望数件あり。 ③研修医の帰国後2か月で、同僚、上司、部下など周りの医師に全員が報告している。既に10-20人を超す人数に新しい知識を教えたものも何人かいる。今後波及効果が現れると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②③ プロジェクト終了後間もない為、今後の経過を見る。 (先ごろ実施されたベトナムからの官民ミッションとの会合においても、ベトナム保健省関係者やホーチミンがん病院から当院に関する質問、意見が寄せられた。ベトナムでのがん研の知名度は向上しているものと推定され、今後の双方交流、後方支援が期待できる)。

※指標は前後比較が望ましい

今回の事業の成果としては、先程申し上げたように10名の医師の研修と、ライブセミナーの実施で、40名参加という計画に対して50名から80名の参加を得ることができたことです。研修に関しては、実施後の各自のレポートでも「ここで得た新しい知識を研修後の診療に役立てていきたい」という声が寄せられ、帰国後も同僚などに10~20人単位で習得した知識の共有を進めていることが報告されています。ライブデモをセミナーとして行ったことが、彼らとの交流を深めるチャンスになったのではないかと思います。

長期的な効果はなかなかまだ把握できていないのですが、2月にMEJが主催したベトナムからの官民ミッションにおいても保健省の副大臣やホーチミン腫瘍病院の院長がいらっやって色々な質問を受けましたので、我々ががん研のプレゼンスも少しずつ向上しているのではないかと考えております。

その他、患者紹介が1件あったことや、ホーチミンの腫瘍病院で内視鏡のビデオスコープシステムを研修医が病院に提案して採択され、来年度中には入る可能性があることなどの成果も出ております。

今年度の成果(事業が複数年継続している場合は、各年度の成果を含めて下さい)

将来のベトナム医療の発展と双方向の医療交流に寄与できるプロジェクトになった。がん治療に関して、世界の最先端を行く当院の技術がベトナム人医師のスキルアップにつながった。当院で研修を受けた医師によりベトナムでの診療症例数が増える事は、当院への検査・治療に関するコンサルトや患者紹介件数増加につながる。必然的にベトナム人医師の当院への研修来院や当院医師の現地講演などへの要望も増えると見込まれ、医師同士・病院間の連携体制の構築につながる。

今後の課題

今後の方針は、引き続き当院がベトナムの病院と連携し、研修医を教育して現地の医療レベル向上と医療者交流を図ることで、日本の医療をベトナムへ紹介し、結果的に当院への検査・治療に関するコンサルトや患者紹介件数を増加していく事である。がんの診療や手術技術は医師が1年で習得できるものではなく、長期的な研修の継続が必要である。課題としてはベトナム人医師の来日や日本滞在は費用が高額になり長期的に継続していくことが困難である。当院からの医師派遣も旅費が高額になる為難しく、当院が必要経費を賄いベトナム人医師を招待することは困難である。その為、単年事業として医師個人の短期留学レベルで終えず、ベトナム人研修医を教育して現地の医療レベル向上と医療交流を図ることで、病院同士の連携体制が構築できるように長期的な事業としていくことが今後の課題と言える。

現在までの相手国へのインパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- ・ 事業で育成(研修を受けた)した保健医療従事者の延べ数
 Ex) がん研での研修 10名、現地セミナー参加者 のべ130 名
- ・ 期待される事業の裨益人口(のべ数)
 新しい内視鏡システムの導入 ⇒ 導入台数・病院数の増加 ⇒ 施術数の増加
 腹腔鏡システムの導入 ⇒ 導入台数・病院数の増加 ⇒ 施術数の増加
 事業参加者から周りの医療関係者への教育・指導 ⇒ 300-500人 ⇒ 全国的な底上げ

展開推進事業の目的に照らして、将来の事業計画が見込まれれば記載して下さい。

「我が国の医療制度に関する知見・経験の共有、医療技術の移転や高品質な日本の医薬品、医療機器の国際展開を推進し、日本の医療分野の成長を促進しつつ、相手国の公衆衛生水準及び医療水準の向上に貢献することで、国際社会における日本の信頼を高めることによって、日本及び途上国等の双方にとって、好循環をもたらす。」

**事業のインパクト(医療技術移転の定着、持続的な医療機器・医薬品調達)につながるよう
 に事業の展望を具体的に描いてください(自由形式)。**

持続的な医療交流、技術協力、機器購入及び研修補助

- ベトナムのがん治療における今後の課題としては、以下の点があげられる。
- * 健診システムの導入 ⇒ がんの早期発見が増える
 - * 医療機材・機器の充実(内視鏡、腹腔鏡、顕微鏡等) ⇒ 正確な診断と措置
 - * 内視鏡医の育成(上部、大腸) ⇒ 検査のみでなく施術の件数が増える

これらすべての導入や教育に必要なものは、援助である。現地では、機器の価格が高額なため購入できず、患者の診断・治療は従来のやりかたで続けている、という意見を聞いた。但し、医師たちは高いモチベーションを持っており、機会があれば研修やセミナーを受け、自身のスキルアップをしたいという希望も多数あるようである。日本からの援助が期待できれば、ベトナムの医療現場も高い技術力を持ち得るであろう。

最後に今後の課題ですが、ベトナムの医師のスキル向上を確実化し、医師からの波及効果、伝播効果によってこの分野の研修やセミナーの依頼などの交流も増え、患者紹介、治療の連携に繋がるものと考えております。ただ、こうした技術交流は1年という短期ではなく、長期的な事業として取り組むべきだと考えております。今回は、医師の負担が相当大きかったこと、費用的にも滞在費が相当かかるということもありましたので、この辺は皆様から助言、ご支援をいただければと考えております。以上になります。ありがとうございました。